チュウヒ

Circus spilonotus

タカ科・夏鳥（一部留鳥）

撮影：浦幌野鳥倶楽部

チュウヒ

名前の由来
低く飛ぶので「中飛」とされたと考えられる。鳴き声からという説もある。漢字名：沢鵟

特定種

国レッドリスト（2007）：絶滅危惧ⅠB類（EN）

北海道レッドデータ：絶滅危急種（Vu）

形態的特徴

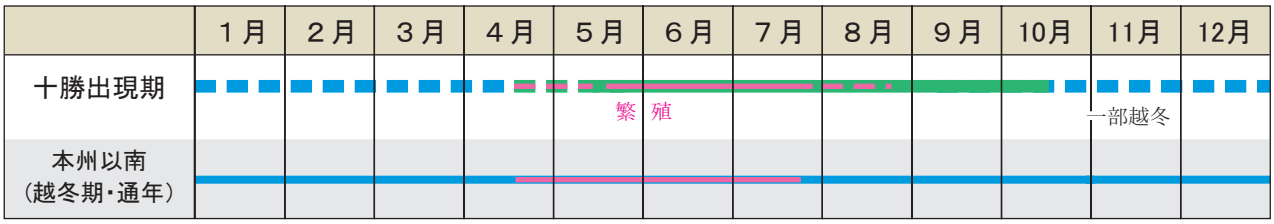
全長（くちばしの先から尾の先まで）オス48cm、メス58cm、両翼を開いたときの差し渡し翼開長113～137cm。
地上で餌を捕るためか、左右の目がフクロウのように前向きについている。
オスの色彩は変化が大きい。頭部が灰色で灰褐色の縦縞があり背面が灰色で腰と下面が白く、翼端に黒色横斑があるタイプが一つ。頭部が黒く背面にも黒色斑があり翼端が黒いタイプがもう一つ。さらに、これらの中間型もある。
メスは頭部や胸が黄白色、背面は褐色、下面は茶褐色のものが多い（これは幼鳥だとする説もある）。
声：繁殖期以外にはほとんど鳴かない。繁殖期のディスプレー（誇示のための行動）時に、オスは「ミューア、ミューア」とか「ミューミュー」とかと鳴くという。給餌の時には「クィークィー」とか「キキキキキッ」とかと鳴くことがあるという。
飛び方：獲物を探す際は、丈の高いヨシなどの草地や道沿い、水路沿いで、地上２～３ｍの低空を、ゆっくりとした羽ばたきと翼をＶの字に保っての滑空とを繰り返しながら飛ぶという。獲物を見つけると尾羽をいっぱいに広げ、垂直近くの角度で地上に舞い降りて捕らえる。
繁殖期前になると、高空と地面すれすれの間で急上昇・急降下を繰り返すなど、様々なディスプレー（誇示のための行動）の飛び方をするという。（→興味深い話の項参照）
類似種と区別点：トビ。
チュウヒは上昇気流に乗って舞っている際に正面から見ると両翼が浅いＶ字になるが、トビはほぼ水平。
またトビも全身褐色であるが尾が凹型で、下面の翼角（翼前縁で前に突き出たところ）近くに白いパッチ状の斑がある。

チュウヒ。翼を浅いＶ字にして低空を飛行する。

生息環境・分布

平地の広い草原。特にヨシ原など河川敷や湖沼周辺の湿原に生息する。十勝では夏鳥。
分布：ヨーロッパおよびアジアの温帯・亜寒帯で繁殖し、北方のものは熱帯に渡って越冬するという。
日本では多くが冬鳥として本州以南で越冬する。本州中部以北および北海道で少数が繁殖する。
北海道では夏鳥（一部留鳥）で、平野部の草原、特に河川敷や湖沼周辺の湿原に生息する。
十勝では夏鳥（一部留鳥）で、ヨシ原のある広い湿地などに生息する。

生活サイクル



食性・他生物との関わり

草むらに潜むネズミ類、小鳥類、カエルなどを食べる。晩秋の干拓地などではカマキリなどの昆虫も食べる。
獲物を探す際は、丈の高いヨシなどの草地や道沿い、水路沿いで、地上２～３ｍの低空を、ゆっくりとした羽ばたきと翼をＶの字に保っての滑空とを繰り返しながら飛び、獲物を見つけると、尾羽をいっぱいに広げ垂直近くの角度で地上に舞い降りて、捕らえる。
捕らえた獲物は高さ１ｍ前後の草むらの中にある料理場に直行して解体するという。
捕食者であり、食物連鎖の頂点にたつ種のひとつ。成長してしまえば他の生物に襲われることはあまりない。

繁殖生態

繁殖期は４～７月、一夫一妻で繁殖する。
越冬地では２月下旬頃からオスが他のチュウヒを追い始め、３月下旬にかけて、様々な飛び方による求愛ディスプレー（誇示のための行動・動作）が見られるという。（→興味深い話の項参照）
巣作りはメスのみが行う。他の多くの猛禽類と異なり、樹上に巣を作らず、地上に枯れたヨシやススキの茎を積み重ねて作り、産座には柔らかなイネ科植物の枯れ葉を敷くという。
５～７卵を産む。昼夜連続して、もっぱらメスが卵を抱く。抱卵中メスは巣を離れることは少なく、オスが餌を運ぶという。（→興味深い話の項参照）
31～38日ほどでヒナがかえる。ふ化したヒナはスズメくらいの大きさで、全身が純白の幼綿羽に覆われる。メスがヒナに餌を与え、オスは運んできた餌を空中でメスに受け渡す。（→興味深い話の項参照）
約35日ヒナを育てる。ヒナはふ化後28日くらいで巣を離れるがその後も親から給餌を受けるのだという。

興味深い話

■標識調査では13年生存の記録がある。
■他の多くの猛禽類と異なり、樹上に巣を作らず、ヨシ原の中の地面に営巣する。巣は枯れたヨシやススキなどの茎を積み重ねた上に、軟らかいイネ科草本などの枯葉を敷いた産座をつくる。また、古巣を利用せず、毎年新しい巣をつくる。
■他の猛禽類よりも顔盤（細かい羽が顔の輪郭を作るように並んでおりパラボラアンテナの様に集音効果があると言われている）が発達しており、目が正面寄りについているので、少しフクロウっぽい顔をしている。
■求愛ディスプレーのための飛び方としては、上昇気流に乗ってらせん状に舞っているメスの隣でオスが波のような飛行曲線を描いて飛んだり、オスメス２羽でらせん状にかなりの高空まで昇ったり、連れ添ってヨシ原上を低く飛んだりする。
■あるいは高空からほぼ垂直に急降下し、地面すれすれのところで急上昇に転じ、上昇後また急降下、というのを繰り返し、コイルを横にしたような軌道で飛ぶ、といったものもあるという。
■さらに外敵を追い払ったときには高空で宙返りしてから急降下し、途中でひねりを入れて着地するという。
■抱卵中やヒナを育てているときには、餌を持ってきたオスが巣の上空を「キューイ、キューイ」」と鳴きながら旋回すると、メスも飛び立って「キャキャキャキャ」と鳴きながらオスを追いかける。オスは高くまで急上昇した後メスめがけて急降下し、メスが反転して向き合った瞬間に、空中で餌が受け渡されるという。

配慮事項

湿原など、広いヨシ原をもった環境が必要。

参考文献

「山渓カラー名鑑 日本の野鳥」高野伸二 編、浜口哲一・森岡照明・叶内拓哉・蒲谷鶴彦 著、山と渓谷社 1985（1995 ２版21刷）
「原色日本野鳥生態図鑑(陸鳥編)」中村雅彦・中村登流、保育社 1995
「北海道鳥類目録改訂２版」藤巻裕蔵、帯広畜産大学野生動物管理学研究室 2000
「野鳥ブックス－２ フィールドガイド日本の野鳥」高野伸二・谷口高司・森岡照明・叶内拓哉、(財)日本野鳥の会 1982（1994 増補版７刷）
「図説 日本鳥名由来事典」菅原浩・柿澤亮三 編著、柏書房 1993
「鳥類標識調査報告書」(財)山階鳥類研究所、1994
「十勝と釧路の野鳥」日本野鳥の会 十勝支部･釧路支部、1987
「日本動物大百科 第３巻 鳥類Ⅰ」日高敏隆監修、平凡社 1996
「名前といわれ 日本の野鳥図鑑① 野山の鳥」国松俊英、偕成社 1995
「図鑑 日本のワシタカ類」森岡照明・叶内拓哉・川田隆・山形則男、文一総合出版 1995

西出隆（1979）八郎潟干拓地におけるチュウヒの繁殖記録．山階鳥研報、11：109-120.
若林稔（1982）鍋田でチュウヒが繁殖．愛知県弥富野鳥園事務所「野鳥園だより」、17：3-4.
中川富男（1991）チュウヒの移動（日本鳥学会1990年度大会ポスター発表要旨）．Jap. J. Ornithol.、39(4)：139.
彦坂富志（1984）チュウヒ観察記．愛知県弥富野鳥園事務所「野鳥園だより」、22：1-4.